



新年1月26日(日) 師崎海岸

知多半島 師崎 もろざき

第7回 左義長まつり
フォトコンテスト開催

左義長



御神火 (どんど火)

点火時間▶ ①的場 / 13:00 ②鳥西・鳥東・栄村 / 13:50 ③荒井 / 14:30

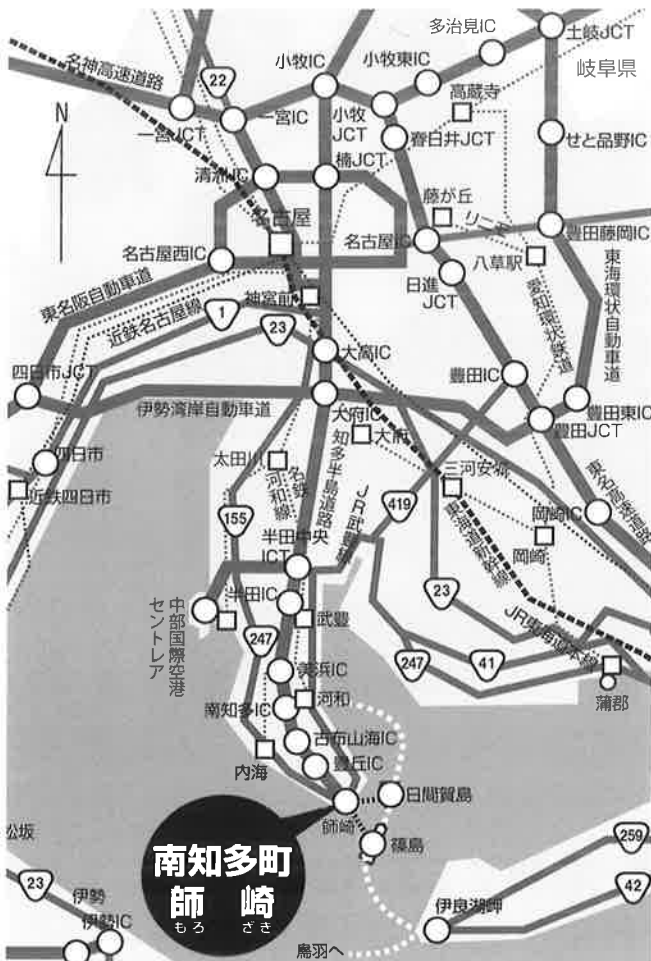
点火時間に旧年の御札、正月の松飾り・注連縄をお持ちください。どんど火で燃やします。この火で餅を焼いて食べると1年間無病息災で過ごせるという言い伝えもあります。

主催：師崎顧問会 協力：師崎区・南知多町観光協会師崎支部・師崎漁業協同組合・師崎商工会師崎支部・師崎まちづくり協議会・師崎子牛会・きりえ工房

「左義長まつり」

左義長は、一般には「どんど焼」ともよばれています。1月の第4日曜日に行われ、正月の松飾りやメ縄、また古いお札さんやお守りを村境に集めて、お焚き上げする行事です。村々によってその形態は異なり、祭りとして発展したものが今日も受け継がれているようです。幟に象徴される師崎の左義長は、25才の厄男を始めとする裸姿の若衆が10メートルにもおよぶ大幟をどんど焼の中に倒したり、起こしたりして祝います。

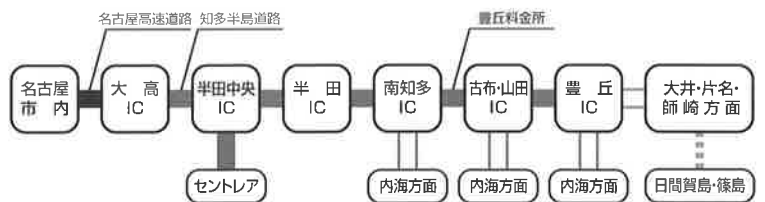
幟には干支やめでたい判じ絵が描かれていますが、上部にはメ縄が描かれ、幟自体がご神体だとも考えられています。幟と幡は同意義で、幡は幡豆(羽豆)神社の幡を意識したものであり、幡豆崎とも呼ばれた師崎の誇りを表した祭りです。師崎の左義長は、本来小正月(旧暦1月15日)の行事で、潮の引いた浜辺で行われていました。その起源は、室町時代に逆のぼると云われていますが、定かではありません。祭りには、幟の脇役ともいえる竹と紙で作られた小舟が登場しますが、軍艦とも呼ばれており、日露戦争の戦勝記念で加えられたのではないかと思います。船にも去年の船玉をはじめとするお札が積まれ、どんど焼と同様に火が付けられ、若衆に担がれて幟の回りを3周して海に放たれます。現在、若衆の減少により、小学生が小幟を作って参加するなど祭りも変化しようとしています。昔と変わらず「感謝」「無病息災」「大漁満足」「商売繁盛」「学業増進」などの祈りを込めて行われています。



南知多へのアクセスガイド

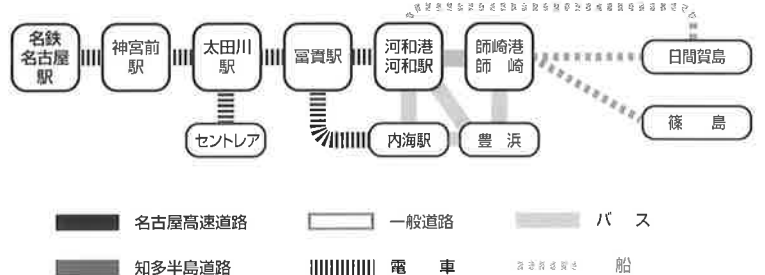
お車をご利用の場合

●名古屋から南へ60km/約1時間



公共交通機関をご利用の場合

●名鉄河和線・名鉄知多新線、知多バス海っ子バスをご利用ください。



お問い合わせ

南知多町観光案内所 TEL:0569-62-3100